ケアの質向上を目指して
人材育成の取り組み

北海道　札幌市
介護老人保健施設　セージュ山の手
介護福祉士　谷口　浩太

《職員状況》

介護職員	３０名
平均年齢	36.3歳
平均在籍年数	5.4年
勤続年数３年未満	１４名

- 養成校卒業者の減少
- 異業種からの転職の増加

≪新人教育・課題≫

プリセプター制度を導入し10年経過

施設独自のチェックリストを使用
・介護チェックリスト項目が不十分
・項目の指導は、各職員でバラつきある

《取り組み内容》

①委員会の立ち上げ
（介護主任・副主任、実習指導者）

②アンケート調査
（指導する側・される側　別々）

③チェックリストの見直し
（委員会の中で項目・内容を検討）

《アンケート内容・結果》

指導する側

Q. チェックリストの改善して欲しい点？

・認知症の方への対応
・根拠の説明
・接遇、コミュニケーション

《アンケート内容・結果》

指導される側

Q. もう少し詳しく教わりたかった点？

・BPSDのある認知症の方への対応
・介助方法の確認
・医療知識

《アンケート内容・結果》

Q. 今後、指導するにあたっての不安は？

・自分の指導方法が合っているか不安
・指導基準が分からず不安
・関係性を構築できるか不安

・チェック項目・内容が少ない
・職員の主観指導内容にばらつき

《チェックリスト改訂ポイント》

・チェック項目や内容を細分化

・指導する「視点・根拠」の明確化

≪チェックリスト≫

項目	内容
食事	食事には、生命の維持の他に楽しみや人間関係の形成をする意義があります。
食前	①テーブル拭き 【 ⑤正しい食事 【座位姿勢・[illegible]応・口腔内の潤い】 ⑥お茶の準 【個別の[illegible]合ったお茶の把握・理解・準備】 ⑦パント[illegible]内の準備 【食器・シンク・ふりかけや個別の補食・おかずの準備】 ⑧配膳 【配膳順の把握と理解・メニュー説明の必要性の理解・食事形態を確認しての提供】 ⑨不適切なケアになり得る介助の理解と適切なケアの理解 【別紙参照】
食中	①自立摂取者の対応 【摂取スピード観察の理解・食べ物のやり取りへの目配[illegible]の理解】 ②食事介助く自立支援・過度な介助になってないか[illegible] 【個々の介助方法の理解と把握・嚥下タイミングの[illegible] 【飲み込み確認の必要性・個別の摂取量の把握と[illegible] ③食事量・水分量チェック 【チェックの意味の理解・量の把握の仕方】 ④食事時のムセについて 【ムセの要因の把握と理解・むせから考えられる[illegible] ⑤むせ込み時の対応 【口唇不良・タッピング・他職員への報告・サクション[illegible]連携】
食後	①下膳 【下膳時の配慮、声掛けの把握と理解】 ②食事量の記入 【食事板への記入方法の把握・温度版への記入方法の把握と理解】 ③口腔ケアセット、道具種類の把握 （歯ブラシ、スポンジブラシ等）

配膳
【配膳順の理解】【メニュー説明必要性理解】【食事形態の確認】

新

≪チェックリスト≫

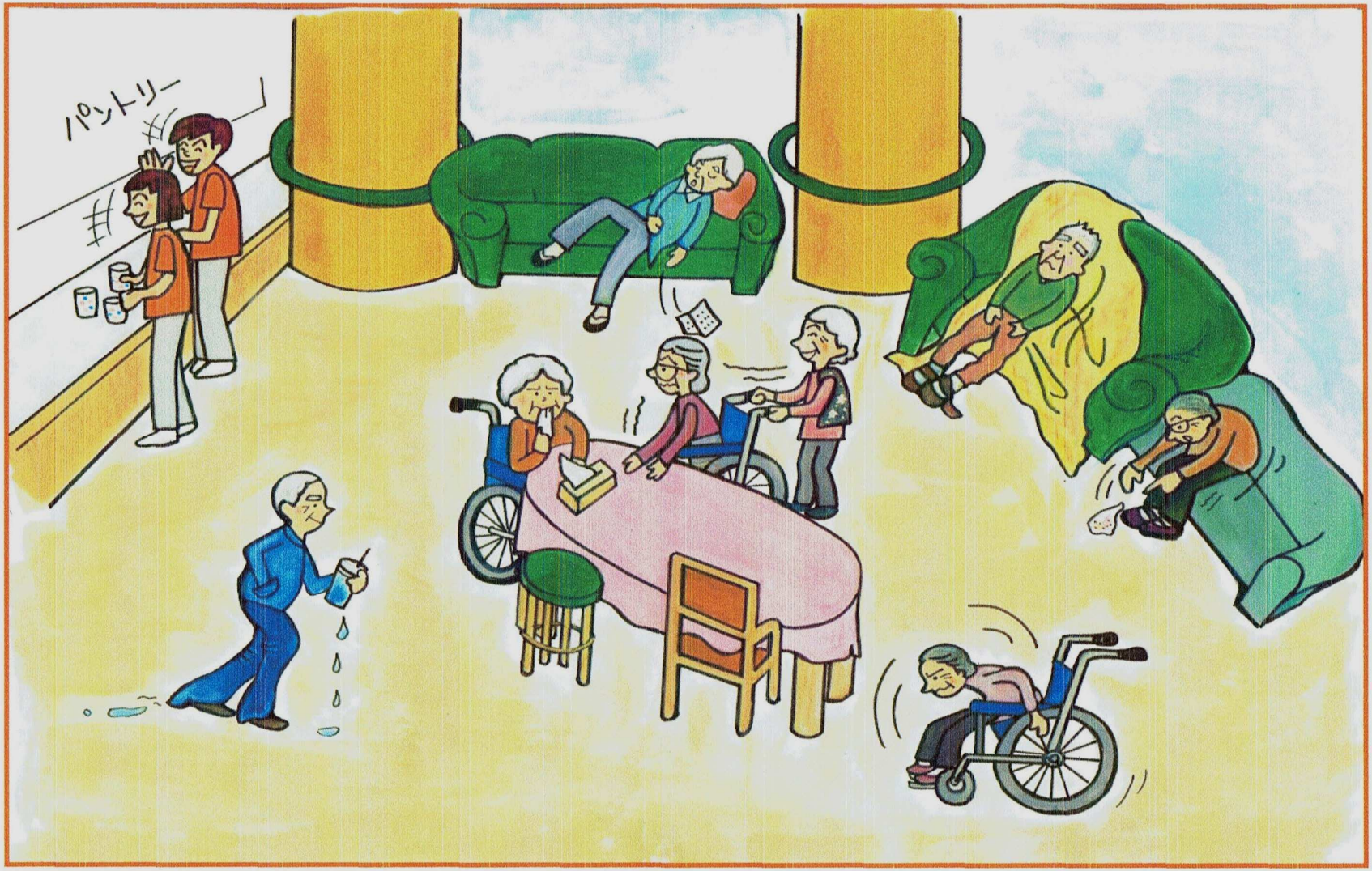
項目	内容
認知症	認知症理解を深め実践していく事、尊厳あるケアにつながります。
認知症理解	①認知症の定義理解 （別紙参照）
	②認知症の原因になりうる病気理解 （別紙参照）
	③中核症状と周辺症状の理解 （別紙参照）
	④認知症の種類の理解 （別紙参照）
	⑤パーソンセンタードケアの理解 （別紙参照）
	⑥不適[illegible]なケア （別[illegible]
	[illegible]に寄り添う態度）
	[illegible]（熱心な態度）
	・間（余裕のある態度）　・距離（馴れ馴れしくなく冷たくもない態度）
	⑧援助的態度を実現する10の技法 ・促し（うなづき、相槌、適切な質問で相手の話を促す。） ・繰り返し（利用者の言葉の一部又は全て繰り返す） ・共感（利用者の感情を正確に把握し、その感情を表す自然な[illegible] ・明確化（言いたいと思ってる言葉を明確な言葉で返す） ・要約（利用者の話を要約して返す） ・解釈（話の要点を因果関係でで結びつけて返す） ・質問（開かれた質問、閉ざされた質問を使い分け自己決定を[illegible] ・支持（考えを引出しそれを指示する） ・沈黙（利用者の言葉を黙って待つ） ・対決（利用者の言動から本音を読み取り素直に表現出来る様援助する）

中核・周辺症状理解などの認知症知識

・パーソンセンタードケアの理解

新

《その他、改善点》



《チェックリスト改訂後》

①チェックリストを介護職員に周知
②チェックリストで自己評価

自己評価後の意見
- 細かな項目で明解になった
- ばらつきのない技術習得ができる
- 認知症の理解不足の自己覚知

《結果・考察》

・チェックリストの項目の細分化
・チェック内容に「視点・根拠」の導入
・統一した指導が可能
・3年間、長期的フォローアップ
・自己課題の明確化

《おわりに》

ご清聴ありがとうございました！！